



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F FAX 03-3590-5419

No.73

《多様性のなかの調和と前進》

第15回AAワールド・サービス・ミーティングに参加して

WSM評議員 湯浅

第15回WSMは、とてもくつろいだ雰囲気、各国がかかえる問題を率直に投げかけ、かなり踏み込んだ話し合いが行われたのが特徴でした。AAプログラムへの信頼と感謝があふれる会場で、ただ単にそれをたたえるだけでなく、このプログラムを実際に伝えていく上での課題を正直に出しあいました。

21世紀へ向けて、私たちの共同体がさらに魅力を増していくためには、何をすればよいのか、意欲的に意見が交換されました。会場の設営、会議の運営の仕方、地元ニュージーランドのメンバーによる温かい雰囲気づくりも、このことにあずかっている力がありました。詳しい報告書は来年の初夏のころ、皆様のお手許にお届けできると思います。ここでは、私個人の印象に残ったことを、いくつか報告させていただきます。

1. マスメディアを使った広報活動

AAの共同創始者ビル・Wは生前、マスメディアを使った広報活動についてたびたび話していたようです。AAの広報活動には、ミーティング会場の扉に貼るお知らせから、地域の電話帳に番号を載せること、新聞、テレビ、ラジオのようなエレクトロニクスのメディアによる情報提供にいたるまで、いろんな方法があることを、くりかえし話していたようです。今から30年以上も前の1966年、アメリカ/カナダの評議会は、テレビ、ラジオによる、広報活動を勧告しました。これはAAを紹介し、どこへ行けばAAがあるのか、情報を提供するもので、いわゆるコマーシャルとはまったく別のもので、現在AAワールドサービス社はテレビ、ラジオの広報番組用のオーディオカセット、ビデオカセットを提供しており、今年のアメリカ/カナダの評議会でも、新しく制作したテレビスポットを承認しました。今回のWSMではこのマスメディアの利用を含めた、広報活動

についての経験の分かちあいがありました。多くの国で、マスメディアが利用されていますが、テレビによる広報活動を制限している国もあるようです。

2. インターネット

このテーマは前回14回から登場しました。サービスの分野での電子メールの利用は前回にくらべて格段にすすみ、その便利さが口々に語られました。WSM評議員の住所録にもメールアドレスを加えることになりました。ホームページのほうは、広報手段としてのすばらしさが再確認されましたが、世界的に普及するのはもう少し時間がかかりそうです。サイトの内容について、よく話しあい、メンバーの合意をえることの必要性も指摘されました。一部の国では、個人的に発信されている多くのAAホームページが存在し、その中には著作権を無視したAA文書の掲示、AAがして良いことの範囲を超えた情報、AAの連絡先としてフルネームと住所を公開したもの、外部の機関と提携している印象をあたえるものなど、困ったものがあるようです。常任理事会はこういうサイトを管理統制はしないが、この領域でも私たちの活動に指針を与えるのは「12の伝統」であり、GSOには模範を示す責任のあることが確認されました。

3. 委員会システムの重要性、委員の責務

WSMでなぜこんなテーマなのか、初めいぶかしく思いました。しかし、こういう基本的なことを改めてしっかりと心にきざむのは大切なことと、終わってみて納得できました。特に委員の資格、責務についての分かちあいが印象的でした。委員会の委員は、サービスの経験、精神的な成長、難しい意志決定ができる能力、コミュニケーションの能力が要求されること。委員は、必要な情報を十分に集めておき、委員会の前には資料をよく

読み、しっかりと準備をしておくこと。委員会に出たら、適切に話し、熱心に聞かねばならない。

あらゆる意見、アイデアに耳を傾ける必要がある、少数意見も十分に聞かねばならない。そして、委員会を信頼し、決定がなされたら、それを受け入れなければならない。こういうことが心に残りました。

4. 国際協力、援助

フランスがアフリカのカメルーンで行ったメッセージ活動の報告は感動的でした。現地の一人のアルコールクからの援助の要請にこたえ、二人のフランス人メンバーが、1997年5月に1週間、98年5月に2週間の2回にわたりカメルーンを訪れ、多くの医療、教育、司法の高官に会い、パブリックミーティングを行い、グループを立ち上げました。それがついに12のグループにまで成長したのです。

アメリカ/カナダはもちろんのこと、南アメリカ、ヨーロッパの国々も国際協力、援助をとて熱心に行っているという感想をもちました。特にドイツが東ヨーロッパの国々に提供した援助は印象的です。いくつかの国のゼネラル・サービス・オフィスの家具・什器の購入費、維持費の援助までしているのです。

5. 共通の困難

何人かの評議員が、AAの国際会議に出ると、自分の国のAAも思っていたほど悪くないな、と感じると言っていました。他の国のAAも私たちと同じように難しい問題をかかえながら、前進を試みているのです。難しい問題とは次のようなものです。サービス活動をするメンバーがたりない。献金がたりない、献金がたりないから、書籍の販売益が重要な財源になっている。全体サービス構成のなかで、トラブルがおきる、ときには、ふたつのサービス構成ができたり、常任理事会の中に分派ができたりする。常任理事会と評議会のあいだがしっくりいかないことがある。ソーバーの長い人がミーティングに来なくなる。若い人、女性がAAに定着しにくい。現われるのだが、消えていく人が多い。輪番制に問題のある国もある。

たしかに役割は変わるが、いつまでもサービスの中核にいて、発言権を増し、独裁者のようになっている、などです。それぞれの国に課題はあるけれども、AAのプログラムを信じ、共同体の未来を信じて、まだ苦しんでいる仲間メッセージを運ぼうと、忍耐強い努力を続けているのは、あらゆる国に共通しています。

6. アノニミティ

自由テーマのワークショップでこの話題を提起



したら、たいへんに盛り上がりました。この問題を簡潔に、誤解を生まないようにご報告することはできません。ただ、サービスの分野でのアノニミティの理解、実践については国によって多少の幅があるようです。だいたいの傾向としては、南北アメリカはあまり神経質ではなく、ヨーロッパは慎重だという印象でした。アメリカ/カナダの評議会報告書には、すべての評議員のフルネームと住所が記載されています。しかし、問題が起きたことはないそうです。イギリスは同種の名簿の送付先を厳選していると報告していました。WSM評議員の住所、氏名もAA内部では公開されていますが、住所は私書箱にしている人も何人かいます。

7. セントラルオフィス

オフィスの陣容、財政、運営方法について、日本と状況が似ているヨーロッパの評議員にできるだけ聞いてみました。しっかりとした統計がなければ、確実なことはわかりませんが、ヨーロッパのいくつかの国との比較でいえば、メンバー数にたいし日本ではオフィスの数が多い、一つのオフィスを献金、サービスで支えるメンバー数が日本は比較的に少ない、という印象を持ちました。

5日間で世界のAAの現状を把握することは、至難です。ここでご報告する私の見聞も限界のあることをおことわりします。これからインターネットを通した各国間のコミュニケーションが盛んになって行けば、世界の実情がもっと細かくわかるようになることと思われま。

最後に、第15回ワールド・サービス・ミ、-ティングを支えてくださった全国のAAメンバーの皆様、J S Oのスタッフの皆様、日本語の通訳をくださったカリフォルニアのダグさん、そして、今回をもって引退されるニューヨークG S Oの所長、ジョージ・トシーさん、会場になったオークランドのAAメンバーの方々に感謝して、このご報告を終わります。

サービス・個人の回復とAAの一体性の基本

第15回W・S・Mに参加して

WSM 評議員 山宮



関西空港から11時間、長いノースモーキングの旅をへてオークランド空港に着く。機内で8時間が過ぎたころ、ニコチンぎれでいらいらが激しくなり、なんで自分がこんな所まで来なければならないのかと腹立たしくなっていたが、オークランド空港で出迎えに来てくれた湯浅氏とオークランドの仲間の顔を見たとき、ケロっとして元気になってしまった。

仲間の車でホテルまで行く。歓迎ルームに顔を出すが、あまり評議員は集まっていない。

夕方から湯浅氏と地元のミーティングに参加(100人くらいのスピーカーズミーティング)し、短い時間ではあるがスピーチをさせてもらった。

ワールド・サービス・ミーティングが始まる。3時から受付、登録など緊張感がピークに、アメリカ・カナダの常任理事会議長のジョウジ・ドウシーとお話しをした時には、手が震えて、お皿にコーヒーをこぼしてしまいました。回りでも同じような光景がみられ、少し安心しました。

これよりクローズドでレッドボールミーティングが始まり、やっとリラックスすることが出来ました。私もボールを受けとり、話をしました。

夕食会には、仲間もやって来て、私に通訳が付いていることをうらやましがっていたが、黙って首を横にふるだけだ。

2日目に文書・出版委員会にメンバーとして出席し、国際出版基金について、各国の報告がありました。日本の報告については、特別献金をしたことで、地域の財務に影響したことを含め、多くのグループ、メンバーからの献金が集まったことを話しました。

国際出版基金の献金リストについて、その送付などの問題を検討、意見交換した結果、それぞれの評議員が持ち帰り決定することになりました(献金リストは要請があれば送付される)。そして、この献金は金額よりも、どれだけ多くのグループが主旨に

答えてくれるかが、大切との確認があった。

3日目には、著作権の問題が、報告された。裁判が行われていることや、判決が出されたことなどが話されました。

カントリーハイライトでは、私のレポートを通訳のダグさんに読んでもらいました。

夜のワークショップは、ヨーロッパ・アメリカ諸国・アジア、オセアニアのゾーンミーティングが行われました。

4日目の全体会議で以下の質問をいたしました。

「日本の常任理事会はまだ3年足らずの経験しかないが、常任理事会委員会があまりうまく機能していない。分かち合いをお願いする。」

色々な貴重な意見、提案を頂きました。自分たちだけでつくりとしないで、各地域に呼びかけてメンバーのリストを出してもらおう。そこから委員会メンバーを見つけて活動を行う、そしてこれが、必ず将来の常任理事の誕生につながるのでは...

この夜なぜか涙が止まらなかった。感謝の気持ちでいっぱいでした。

5日目最終日、全体で分かち合いの時間に自分の気持ちを、前夜からの涙をこらえて話させて頂きました。

「すべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。とりわけ自分の国のオールドタイマーに対する感謝の気持ちです。あの人たちがいなければ、今、私は生きていないのですから...」

午後の後期評議員たちの感動的な別れの言葉は忘れられません。一つの役割を終え、また新しいチャレンジに向かって行く仲間から敬意を贈りたいと思います。

すべての参加国の言葉による「平安の祈り」で終わりました。AAのメッセージを世界のまだ苦しんでいる人達へ届けようという評議員たちの熱気、とりわけアジア・アフリカへ皆様の視線が向いていることを感じました。

献身的に通訳の仕事をしていただいた、カリフォルニアのダグ氏、山本さん(ゼーンぶ翻訳してもらいました。ほんとうにありがとう)、現地でお世話になった皆様、色々とお手数をおかけいたしました湯浅氏に心から感謝いたします。

第4回AA全国評議会 プログラム

第4回AA全国評議会は1999年2月12, 13, 14日に開催されますが、そのプログラムが出来上がりました。GSMから10年の経験を踏まえ、いよいよAA日本のサービス構成が大切な肉付けの時代へさしかかったといえるでしょう。

評議員を選んだのはそれぞれのグループ代議員ですからメンバー一人一人と評議員は直接的な関係にあると考えます。AAの大事な目的である、まだ苦しんでいる人たちにメッセージを届ける為に私たちが何をしなければならぬのか。

評議会の動向に大きな関心を持っていくことが、自らの生き方にとっても有意義であると思います。

第4回AA全国評議会

テーマ 「グループの良心を評議会へ」

日時 1999年2月12, 13, 14日

場所 東京 深川 ホテルB&G

1日目 13:00 ~ 22:00 (全体会議)

2日目 8:00 ~ 22:00 (分科会, 全体会議)

3日目 8:00 ~ 11:00 (全体会議)

コンピュータに詳しい

仲間たちへ！！

評議会導入が承認されたコンピューターが、1998年度末に実行され新年度から試行を始めます。

基本的な会計処理は、今までのプログラムと変わりませんが、新しいコンピューターの機能を十分に活

用する為の、様々なアイデアを募りたいのです。

AAの伝統の枠の中で、JSOがどのようなサービスが可能なのか、またこの分野に詳しく、ボランティアとして活動できる人がいるのか、情報が不足しています。

現代社会のなかで、AAが社会資源として認知を受けることが、自らの生き方の安全性を確保する方法であることは、事実と思います。

AAは宣伝するよりも、ひきつける魅力に基づく事は当然としても、広報(公報も含め)をどのように展開して行けばよいか、多くのメンバーからの知恵を集めてみたいと考えます。どうぞ、TEL・FAX, お手紙やオフィスへ来てのお話しなど、心よりお待ちしております。



新刊案内 - 12月15日発行

「ベスト・オブ・ビル」~グレープバインより~
信じる心 / 怖れ / 正直さ / 謙虚さ / 愛

400円

ビル・Wはグレープバイン誌にいろいろな文章を寄せているが、ここに掲載された5篇は、その中でも特に優れたものであり、AAメンバーならだれでも関心を持つテーマを取り上げている。